初めての症例報告！
外科医のためのケースレポートのトリセツ

東京大学医学部非常勤講師・とよしま内視鏡クリニック

畑 啓介

1996 年東京大学医学部医学科卒業。東京大学大学院医学系研究科外科学専攻にて医学博士（外科学）を取得。米国サンタモニカの John Wayne Cancer Institute に留学後，東京大学大腸・肛門外科，東京大学がんプロフェッショナル養成プラン元特任講師を経て現職。医学英文論文執筆・執筆指導多数。著書に『学会発表・医学英語論文執筆のトリセツ』（日本医事新報社）がある。

1 はじめに：症例報告が襲ってきた！	p02
2 学会で症例報告をするように指導医から言われたら	p02
3 抄録を作成しよう！	p04
4 抄録を提出したら	p06
5 採択メールが届いたら：スライドやポスターの準備	p10
6 スライドやポスターができたら：予演が待っている	p15
7 学会発表当日	p17
8 症例の選択方法と外科系学会の紹介	p18
9 英文論文化：PubMed 掲載をめざそう！	p20
10 おわりに	p23

アイコン説明

- 注意事項／課題・問題点
- 補足的事項／エッセンス
- お役立ち／スキルアップ
- Link 関連情報へのリンク

HTML版
スマホでも読みやすいブラウザ表示です。本コンテンツ購入後、無料会員登録することでご利用いただけます。

無料会員登録
無料会員登録の手順とシリアルナンバーによる HTML 版の閲覧方法の解説です。

オリジナルコンテンツ
日本医事新報社のオリジナル Web コンテンツの一覧をご覧いただけます。

ご利用にあたって

本コンテンツに記載されている事項に関しては，発行時点における最新の情報に基づき，正確を期するよう，著者・出版社は最善の努力を払っております。しかし，医学・医療は日進月歩であり，記載された内容が正確かつ完全であると保証するものではありません。したがって，実際，診断・治療等を行うにあたっては，読者ご自身で細心の注意を払われるようお願いいたします。

本コンテンツに記載されている事項が，その後の医学・医療の進歩により本コンテンツ発行後に変更された場合，その診断法・治療法・医薬品・検査法･疾患への適応等による不測の事故に対して，著者ならびに出版社は，その責を負いかねますのでご了承下さい。

1 はじめに：症例報告が襲ってきた！

学会発表の手始めとして，指導医から指名されることも多い症例報告。「今度，○○学会の支部会があるから，この前のめずらしい症例を学会発表してみない？」と指導医から言われれば，「まずい，自分にもついに学会発表の依頼がまわってきてしまった」と，多くのドクターが何から行えばよいのか途方に暮れる瞬間だと思います。

本稿では症例報告の実際について，初めて発表をする外科医向けに説明していきます。

症例報告は，最終的には英文論文の形にまで持っていけるとすばらしいのですが，残念なことに学会発表される症例報告の数と比べると，英文論文になる症例報告の数は圧倒的に少ないのが現状です。しかし，読者にとって役に立つメッセージがあれば，ケースレポートとして英文論文化が可能です。また，印象的な画像があれば画像系のクイズを中心としたImage of the Monthのようなコーナーでの英文論文化も夢ではありません。より上級者向けの学会発表や英文論文執筆の方法に関しては，拙著『学会発表・医学英語論文執筆のトリセツ』に詳しく書いてありますので，よろしければ参考にして下さい。

学会発表をするのであれば，症例を選択する段階から文献検索をしっかり行い，考察まで含めて，学会抄録を作成すべきだという厳しい意見もあります。確かにそのようにできれば理想的ですが，実際には上級医から発表する症例も学会も指定された状態で，かなり短い時間で抄録作成しなくてはいけないシチュエーションのほうが多いかもしれません。

そこで，本稿では，抄録作成⇒文献検索⇒学会発表という現実的なシチュエーションにおける順番で説明したあとに，さらにやる気のある研修医・専攻医や指導医の先生向けに，症例選択や英文論文執筆の方法に関しても触れていきます。

Image of the Month

多くの月刊の医学雑誌に「今月の画像」として，印象的な画像を紹介するコーナーがあります。雑誌によって多少名前が異なっていて，たとえばNEJMではImages in Clinical Medicineがそれに相当します。

関連書籍

学会発表・医学英語論文執筆のトリセツ： 畑啓介著，A5版，240頁。先輩に言われて致し方なく学会発表することになった人，博士号取得のために英語論文執筆が必要な人，論文を書いてみたい・書かなければいけないけれどなるべくタイパ・コスパよく書きたい人，いずれかにほんの少しでも当てはまる方に，ぜひ手に取って頂きたい1冊。

2 学会で症例報告をするように指導医から言われたら

研修医 困ったな。先輩から今度の学会支部会に，症例報告を演題として出すように言われてしまって……。

専攻医 えー，いいな。私は研修医のとき1回発表したきりで，学会発表や英文論文執筆できる症例を探しているところだから，うらやましいな。どうして困っているの？

©日本医事新報社 無断転載・複製禁止
著作権追跡番号：NFT3047-292407

研修医 学会の登録演題数がまだ少ないから，ウチの施設からもう１題演題を出してほしいと言われたらしく，抄録締め切り日までの期限があと４週間しかないんです。

指導医 そういう大人の事情もときどきあるんだよね（苦笑）。でも，研修医や専攻医の先生の発表の場があるのはありがたいこと。手伝うのでなんとか４週間で抄録を完成させてみよう。

「今度，○○学会の支部会があるから，この前のめずらしい症例を学会発表してみない？」と指導医から言われたら，最初のタスクは発表内容を抄録として簡潔にまとめることです。過去の同じ学会の抄録を参考にしながら，症例を簡単にまとめます。ポイントは以下の３つです。

はじめの３歩

- ☑ **抄録の締め切り日と文字数の確認**
- ☑ **現病歴を個人情報に注意して記載**
- ☑ **著者情報などの演題情報を仮登録**

1 抄録の締め切り日と文字数の確認

まずは落ちついて，学会のウェブサイトや学会誌などを見て，抄録の文字数・締め切り日を調べます。たとえば外科系の外科集談会（日本臨床外科学会東京支部会）のウェブサイトを参考にすると，**演題名全角40文字，抄録本文全角400文字以内となっています。**

発表の指示を受けてから抄録の締め切りまで，時間があまりないことも多いでしょう。１カ月ほどは余裕がないと初めての症例報告は難しいかもしれませんが，締め切り日は延長されないと考えて，可能な範囲で完成させていくことになります。なお，東京だけでなく地域ごとに外科集談会を開催していますので，確認してみて下さい。

Link

外科集談会（日本臨床外科学会東京支部会）のウェブサイト．

2 現病歴を個人情報に注意して記載

症例報告の場合，抄録の大半は症例のまとめなのでそれほど心配しなくても大丈夫です。初めて抄録を作成する研修医の先生であれば，迷わず【症例】から書きはじめるとよいでしょう。そして，症例の出だしは年齢と性別です。まずはMicrosoft Wordを開いて「症例は70歳代女性」と打ってみましょう。最近は個人情報への配慮から，実年齢がよほど重要でなければ，このようにぼやかして記載するケースが多くなっています。そして，入院日や手術日なども，時系列が必要な場合だけ個人が特定できない程度にぼやかした形で記載します。

そして最後は「～という稀な症例を経験したので，文献的考察を加えて報告する」と**まずは**記載しておきます。実際，最近の外科集談会の抄録を見

©日本医事新報社 無断転載・複製禁止
著作権追跡番号：NFT3047-292407

てもこのパターンが最多になっています。本当はしっかりと考察まで抄録に記載できるのが理想的ですが，締め切りまでの期間が短い場合も多いので，現実的にはそのようなパターンで提出せざるをえないことも多々あります。短い時間で無理に考察を記載して，その後の文献検索で，実はまったく見当違いな考察を書いてしまっていたということもあるので，このあたりは時間とのバランスを見て，どの程度まで完璧な抄録を作成するかを決めます。

3 著者情報などの演題情報を仮登録

演題登録の際に，共著者の学会会員番号やメールアドレスが必要になることもあります。抄録が完成する前に，早めに抄録以外の登録項目を含めて一度確認の上，仮登録をしておくことをお勧めします。あとから変更は可能なので，抄録部分には極端な話，「症例は70歳代女性」とだけ記載して，仮登録してもよいでしょう。抄録ができてから一気にすべての項目を登録しようとすると，必要な情報を共著者に聞くのが直前となり，慌てることになりかねません。早めに一度，登録内容を確認しておきましょう。老婆心ながら，登録したパスワードを忘れないように！

◆

なお，これから症例選択をする専攻医や指導医の先生向けに，外科症例選択の方法を第8章に記載したので，参考にして下さい。

共著者の名前のスペルチェック

英文論文にする際には，共著者の名前のスペルに関して表記方法が複数あることがあるので，どの表記にするのか，本人に確認が必要です。Otani，Ohtani，Ootaniなどが一例です。

3 抄録を作成しよう！

研修医 症例提示から書くといいと言われたけれど，なかなか進まなくて……。

専攻医 症例提示もタイトルも型みたいなものがあって，たとえばタイトルなら「～の１例」というものが多いから，過去の抄録を見てみると参考になるよ。

指導医 そうだね。それではタイトルの決め方から順番に見ていこう！

1 タイトルの決め方

症例報告の場合は，タイトルに入れる項目は大体決まっています。まず，疾患名が何よりもタイトルに入れるべき項目であることは，想像に難くないでしょう。そして，2つの疾患の合併例の場合には，2つの疾患名を含めることになります。また，鑑別診断がメインとなる症例報告の場合には，「○○癌と鑑別が難しかった××の1例」といった形になります。外科の症

©日本医事新報社 無断転載・複製禁止
著作権追跡番号：NFT3047-292407

腹腔鏡やロボット手術などの症例報告が多く採択されていることが，特徴として挙げられる。また，技術認定取得のための業績としても認められる。通常，抄録締め切りは5〜6月頃，学会会期は12月頃。2026年は9月を予定している。

③日本臨床外科学会学術集会

全国規模の学会だが，最近では専攻医セッション・研修医セッション・学生セッションも用意されている。主題演題でも腸閉塞や虫垂炎，ヘルニアなどの非悪性疾患の臨床的な内容が取り上げられることが多い。
通常，抄録締め切りは5〜6月頃，学会会期は11月頃。

Link

日本臨床外科学会学術集会（ウェブサイト）.

9 英文論文化：PubMed掲載をめざそう！

指導医 それでは，今回の担当症例が英文論文にできそうなことがわかったところで，実際に取りかかってみよう。

専攻医 患者本人からの同意書も取って，やる気は十分にあるのですが，英語はあまり得意じゃないので，取りかかるのがなかなか難しいです……。

研修医 先生の『学会発表・医学英語論文執筆のトリセツ』を読んだら書けますよね。

指導医 宣伝ありがとうございます！　でもここでは，『学会発表・医学英語論文執筆のトリセツ』には書いていない症例報告への第一歩に役立つ英文表現をいくつか紹介していくので，それを参考に取りかかってみよう！

1 各科共通ワンポイント英文表現

ここでは，動詞（句）を中心に頻繁に出てくる英文表現を紹介していきます。主訴に関する記載はpresented withなどから始めるのが鉄板です。

・presented with：症状が現れる，示す
▶ The patient presented with abdominal pain.
腹痛で患者が来院した。

・complained of：〜の訴えで
▶ She complained of intermittent dyspnea.
彼女は間欠的な呼吸苦を訴えた。

論文の時制

症例に関する記載はほぼほぼ過去形で書けば正解です。
例外として，“〜is shown in Table 1”というように，表や図に関する記載は現在形で書くという点は注意が必要です。

©日本医事新報社 無断転載・複製禁止
著作権追跡番号：NFT3047-292407

・worsened：悪化する

▶ The symptoms worsened over the course of a week.
症状が1週間ほどで悪化した。

・was admitted to：入院する，was discharged：退院する

▶ He was admitted to our hospital.
彼は当院に入院した。

▶ The patient was discharged home on postoperative day 5 without complications.
患者は合併症なく術後5日目に退院した。

術後日数の英語表記に注意

術後日数は日本で汎用されている5PODという表現ではなく，PODのあとに数字が置かれる点に注意。

・revealed/showed：認めた

これらは，画像所見を示すときの定番です。同じ動詞を繰り返すのは幼稚な表現とされるので，いくつかの画像所見を示すときには動詞を変えるようにします。

▶ The brain MRI revealed old cerebral infarction.
頭部MRIでは陳旧性脳梗塞を認めた。

▶ The chest X ray showed multiple nodules in the right lung.
胸部X線では右肺に多発結節を認めた。

2 外科ワンポイント英文表現

外科手術関連の英単語の3種の神器は，underwent・uneventful・discharged。

何と言っても外科と言えば手術。最も使われる動詞はunderwent（原形はundergo）です。

・underwent（undergo）/performed：施行した

▶ He underwent laparoscopic cholecystectomy.
彼は腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した。

手術術式を主語にしたければ，performを使う方法もあります。一般的には受動態は避けて能動態を使うのが重要とされますが，下記のように外科医を主語にするのもおかしいので，performedを症例報告で使う場合は受動態を用いることが多いです。How I do itのようなコーナーで自分たちの手技を紹介するのであれば，We perform ～と，あえて能動態を使うこともあります。

▶△ The surgeons performed a pancreatoduodenectomy.

▶○ Pancreatoduodenectomy was performed.
膵頭十二指腸切除術を施行した。

ちなみに予定手術はelective surgery，救急手術はemergency surgeryと言います。

©日本医事新報社 無断転載・複製禁止
著作権追跡番号：NFT3047-292407